

ラジコンボディ作成の基本

ボディ完成までの流れ

工場製造

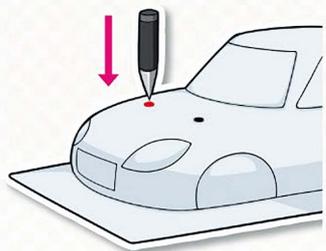
▶ 1. ボディを洗淨

新品のクリアボディには、工場製造時についた油分が残っています。油分が付着した状態で塗装すると、塗料がうまくのらず「曇り」「ひび割れ」「剥離」の原因になります。そこで、ボディの塗装面(ボディの裏側)を中性洗剤で丸洗います。洗淨する際はやわらかいスポンジを使用しましょう。



▶ 2. ボディポスト用の穴あけ

ボディポスト用を通す穴を開けます。シャシーとボディが同一メーカーでなかったり、穴位置がプレスされていないもの場合、ボディをシャシーに乗せて穴位置を確認する必要があります。また、マグネマウント ガ・チーン(No.69291/No.69292)などを使用してポストレスボディにする場合でも、取付位置に目印を付けておきましょう。



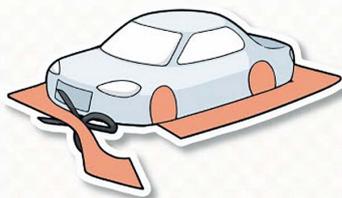
▶ 3. マスキングシートを貼る

当社で販売しているクリアボディには、窓やライト用のマスキングシートが同梱されています。このマスキングシートを貼ることで、『塗りたくない部分』を覆うことができます。塗装後にマスキングシートをはがせば、塗装されていないクリアな面が出てきます。



▶ 4. 余計な部分をカット

塗装前にボディの余白とホイールアーチをカットします。その理由は、塗装後にボディをカットすると、カット中にハサミの刃が塗装面に触れてしまい塗装をはがしてしまう可能性があるから。



■…カットする部分

▶ 5. ボディを塗装

塗装のコツは薄く塗り重ねる事、また十分な乾燥が大事です。手早く仕上げようと厚塗りをすると、吹き付けた塗料が垂れてくるので注意が必要です。ちなみに、塗装はクリアボディの裏側から行います。最後の裏打ちもしっかりと！



▶ 6. マスキング・保護フィルムをはがす

当社ボディには、表面に保護フィルムが貼ってあります。よくあるミスの一つとして、塗装後にその保護フィルムをはがさずにデカールを貼ってしまうことが…。綺麗に隅々まではがしましょう。これをはがすとピカピカのボディが出現します！勿論マスキングシートをはがすのも忘れず。



▶ 7. デカールを貼る

まずは付属のデカールを貼りましょう。気泡が入らないよう慎重に。さらに、ウイングなどのオプションパーツを装着するなど、ボディのディテールアップを。また、カーボン柄のシートやエアロパーツ、LEDの電飾など、様々なアイテムも発売されています。貴方のセンスの見せ所！



今回は【5. ボディを塗装】について詳しい手順を紹介していきます！
塗装術をマスターしてアナタの理想のRCボディを作りましょう！

◆ナビゲーター◆
恵比寿 遼ちゃん
(えびす しょう)

Radio Control Parts
ABC HOBBY

ラジコンボディ作成の基本

塗装の基本ポイント



最初はABCプライマーを塗布して

ラジコンカー用のボディは、ポリカーボネートという素材
できており、衝撃に強い特性を持っています。
またポリカーボネートボディは表面がツルツルのため一般
の塗料との密着性が悪く直接ポリカーボネートに塗布して
も衝撃で塗装が剥離してしまう可能性があります。
**[ABCプライマー]はポリカーボネートと塗料の間に膜を作り、
ポリカーボネートボディと塗料との密着性をUPさせます。**
その為に最初にABCプライマーをポリカーボネートボディに
塗布してから塗装を行ってください。



◆注意◆

プライマーは透明のため、ついつい塗りすぎてしまいます。
ムラなく薄く2~3回塗布すれば充分です。塗装後はドライヤーで充分乾燥
させてから、3~4時間程自然乾燥させてください。

ボディは裏側から塗装する

一部を除き、大半のラジコンカーボディは、**透明
なポリカーボネート製**です。
そして、ポリカーボネートボディは基本的に
裏側から塗装します。ポリカーボネートの
表面がクリア層の役割になるので、保護フィルム
をはがすと光沢のあるボディに仕上がります。
また裏側から塗装するので、クルマをぶつけても
塗装がはがれる心配がありません。



ぶつけても
はがれない!



塗装は基本、晴れの日

塗装は室内ではなく**日中の晴れの日、野外で行い**ましょう。
塗装の状況をしっかり確認するためにも、日中時間帯
に行うのが基本です。
もし室内で塗装する場合は明るい部屋で行い、
換気を絶対に忘れずに行ってください!
暗い場所での塗装は塗り残し、塗りすぎ、等塗装のミスに
つながります。
雨の日は湿気が多く、塗料が水分を吸ってしまい
綺麗に発色しないことがあります。可能な限り、
カラッと晴れた日に塗装を行いましょう。

また、塗装する際はご近所に迷惑が掛から
ないように気を付けて行いましょう。



スプレー缶の基本ポイント

冬は缶を温める

スプレー缶での塗装は、冬より夏の方が綺麗に塗装することが出来ます。
これは気温が上がるとスプレー缶内部のガス圧が高くなって、結果として薄く均一に吹くことができるようになるからです。
冬の場合、スプレー缶の内部ガス圧が低くなるので、スプレー缶をお湯につけて温めてから塗装しましょう。

40℃前後のお湯でスプレー缶が人肌程度まで温めます。
時間としては1～2分程度で充分です。

絶対にスプレー缶を直接火にかけることはしないでください！
高圧になりスプレー缶が爆発し大変危険です。



40℃
前後



塗装の前は缶を振る

スプレー缶の中の塗料とガスを混ぜ合わせるため、塗装前にスプレー缶を振ります。
目安は塗る前に約30回～。
新品の場合はスプレー缶の下の部分に塗料が溜まっている可能性がありますので、特に念入りに振りましょう。
塗装作業の間にもスプレー缶を振ることをお勧めします。

約
30回



ノズルはしっかり押す

スプレーノズルは**しっかりと下まで押し込んで**吹くこと。押し方が浅いとガスだけが出てしまい、途中でガスがなくなってしまうことに。
缶の中にまだスプレー塗料が残っているのに、吹けなくなってしまう原因がコレです。
塗料を最後までちゃんと使い切るためには、しっかりとスプレーノズルを下まで押し込んで吹くことを心がけるようにしましょう。



しっかり
押さないと…



スプレーの吹き方の基本-1

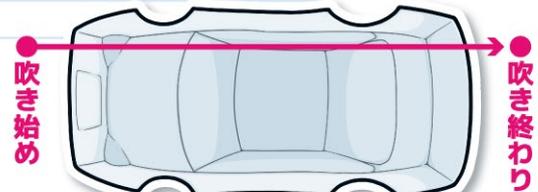
スプレーノズルとボディの距離は約30cm!



ボディとスプレーノズルの距離は**30cmほど**離して吹くのが理想です。

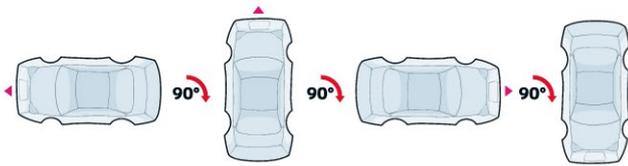
塗装面との距離が近いと、塗料が垂れてしまったりムラの原因になります。

また、スプレーノズルをボディの外から吹き始め、ボディの外で吹き終わると、吹きムラを防げます。



横にも縦にもスプレーする

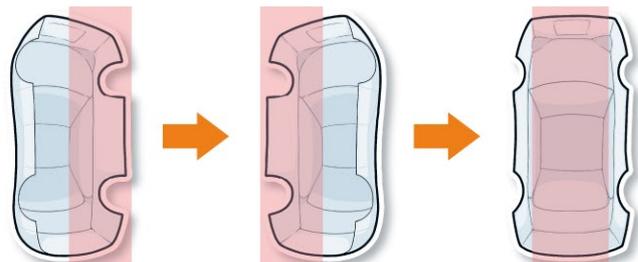
スプレー缶で塗装する場合、スプレー缶を左右どちらかへ一定のスピードで動かして吹き付けましょう。腕の動きを一定にし、ボディを回転(横で吹いたら縦に向ける)させて塗り重ねていきましょう。これを繰り返せばムラなく均一で綺麗な塗装面に仕上げることができます。



塗装は薄く塗り重ねる

塗装の順番は右側面→左側面→中心面というように、大まかなブロックに分けて吹き付けます。

全面に**薄く**吹き付けたら乾燥させ、**しっかり乾いたらまた薄く**吹き乾燥というサイクルを4~5回ほど繰り返します。塗装色によってはもう少し繰り返して塗装します。



塗料を乾燥させる時間は環境によって多少異なりますが、表面が乾くのに30~40分ほどかかります。



スプレーの吹き方の基本-2

●1回目

スプレー缶がまだ良くみえてるよ!



●2回目

スプレー缶が少し見えなくなって来たよ!

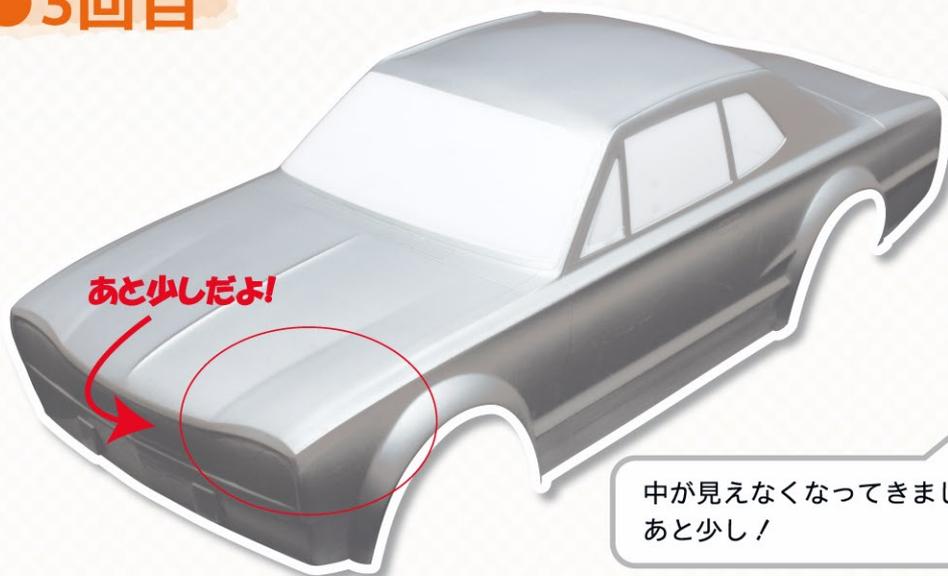


塗料を塗り重ねていく様子を撮影した写真です。
(わかりやすいように中にスプレー缶を入れてあります。)

まだまだ中身が透けて見えます。

●3回目

あと少しだよ!



中が見えなくなってきました。
あと少し!

●4回目



手間は掛かりますが、綺麗で
カッコいいボディを完成させる
には**欠かせない**作業です!



スプレーの吹き方の基本-3

ボディの奥や隅の塗り忘れに注意

ライト部分やグリルなどの凹凸があるところは塗料が入りづらいです。ボディの向きを変えたり、色々な角度から塗装するような工夫を。
ここで塗り残しがあると、裏打ちした際に黒い塗料が透けてしまうので念入りに確認しましょう。

塗り残しや塗りムラがあると裏打ちや、違う色を重ね塗りの時に色が透けてしまうよ!



最後に必ず裏打ち

塗装を終わったら、最後に裏打ちです。
裏打ちとは、太陽の光でボディの中が透けてしまうのを防ぐ為に、塗装した上から更に黒を塗り重ねる作業です。この黒が、遮光カーテンの役割を果たしてくれます。(ボディ色と黒の間に白などを挟むと、発色が明るくなります。)
塗装の後は裏打ちを忘れずにしましょう!



※ボディの裏側からLEDライトを点灯しています。

ここで紹介してきたものはあくまで一例です。
これを踏まえつつ、色々試して自分がやりやすい方法を見つけましょう!



◆ご注意◆

まったく同じボディ、塗料を使用しても、塗る量や環境により、ABCホビーWEBサイトに掲載されている写真と同様の物ができあがるとは限りません。
ご了承をお願いします。



ABCプライマー塗布の基本ポイント



ボディは綺麗に洗って、十分に乾かして。

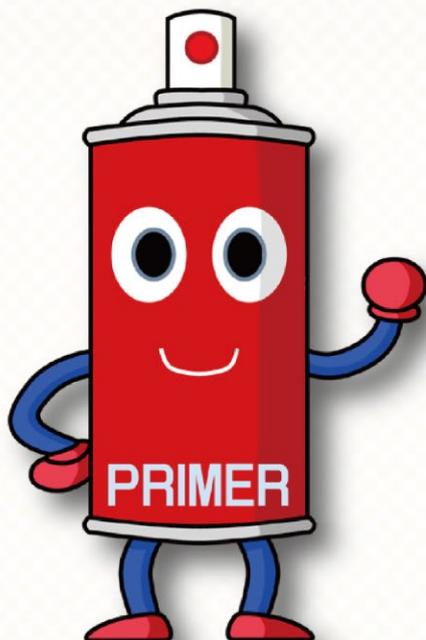
新品のボディには、工場生産時に付いた油分が残っています。油分が付着した状態で塗装すると、塗料が上手く定着せず「曇り」「ひび割れ」「剥離」の原因になります。まずはボディの塗装面を**中性洗剤**で綺麗に洗ってください。

洗ったボディは十分に**乾燥**させてください。水分が付着した状態で塗装すると、塗料が上手く定着せず「曇り」「ひび割れ」「剥離」の原因になります。ドライヤーで十分に**乾燥**させて下さい、その後**3~4時間程自然乾燥**させてください。



ABCプライマーを塗装します。

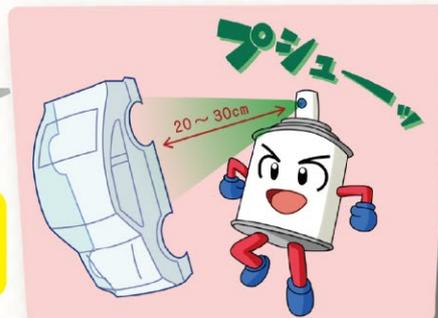
プライマーは透明のため、ついつい塗りすぎてしまいます。**ムラ無く薄く2~3回塗布**すれば充分です。塗装後はドライヤーで充分**乾燥**させ、**3~4時間程自然乾燥**させてください。



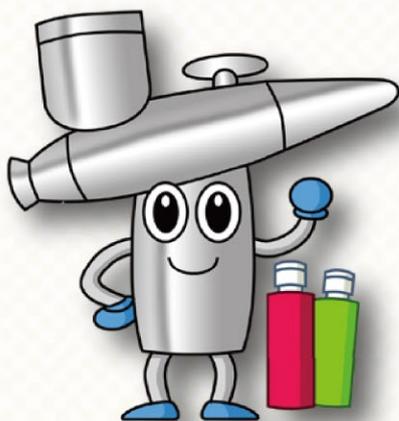
プライマーをスプレーする際はボディとスプレーノズルを約**30cm**離して**薄く2~3回**塗布して下さい。

◆注意◆

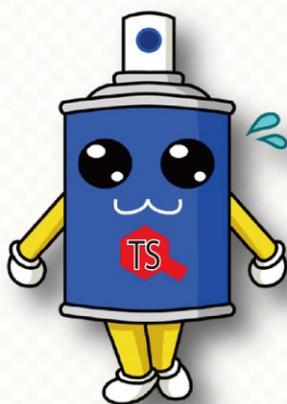
厚塗り、乾燥不足は後々の塗装時に「曇り」「ひび割れ」「剥離」の原因になります。



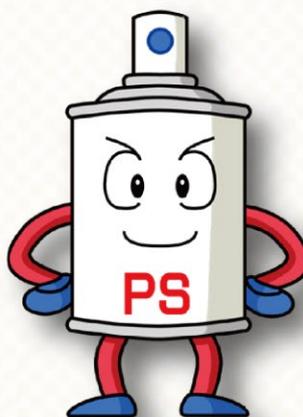
ABCプライマーの上に塗装できるのは下記の塗料です。



ABCアクアシリーズ
一般的な水性塗料



タミヤTSシリーズ
一般的なアクリル塗料



タミヤPSシリーズ
一般的なポリカーボネイト塗料



ABCボディカラー

RCボディカラー Sprey 塗布の基本ポイント



オーバーコート塗料に最適

全ての塗装が完了した後に塗装する事により、隠ぺい性・衝撃性を向上させます。

グロー燃料から塗料を保護します。

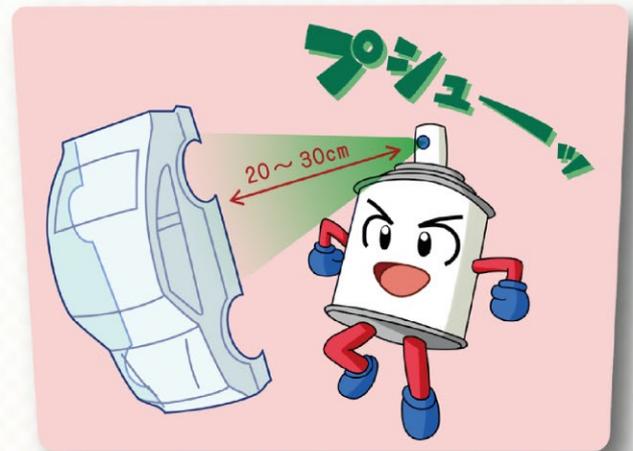
全ての塗装の後にRCボディカラーを塗布することでグロー燃料から塗料を保護します。



RCボディカラーをスプレーする際はボディとスプレーノズルを約30cm離して薄く2~3回塗布して下さい。

◆注意◆

厚塗り、乾燥不足は後々の塗装時に「曇り」「ひび割れ」「剥離」の原因になります。



RCボディカラー Sprey を塗装した表面には他の塗料は塗装出来ません。



RCボディカラー Sprey を塗装した表面に、RCボディカラー Sprey 以外の塗装を行うことは出来ません。

◆注意◆

RCボディカラーの塗装面にRCボディカラーの重ね塗りは可能です。